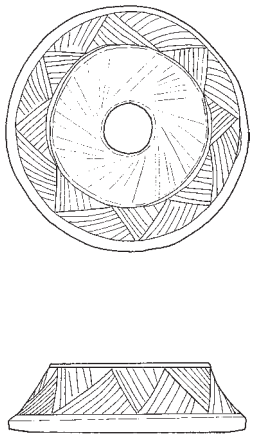
千 葉 県 八 千 代 市

堰 場 台 遺 跡 a 地 点

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



平成25年度

株式会社グランドラインコーポレーション

八 千 代 市 教 育 委 員 会

凡　　例

1．本書は，八千代市教育委員会が平成25年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成事業に伴うもので，事業者である株式会社グランドラインコーポレーションの委託を受けて実施した。

2．調査を行なった遺跡は堰場台遺跡ａ地点（遺跡No.292）・堰場台古墳ｂ地点（遺跡No.271）で，所在地は千葉県八千代市大和田字堰場台283番１，大和田字掘込250番９である。

3．調査及び整理は，以下のとおり実施した。

確認調査　平成24年度市内遺跡調査事業として，国庫及び県費の補助を受けて実施した。

期間　平成24年12月26日～平成25年１月21日　面積729㎡/7,806.27㎡

本調査　期間　平成25年７月１日～７月31日　面積842.5㎡

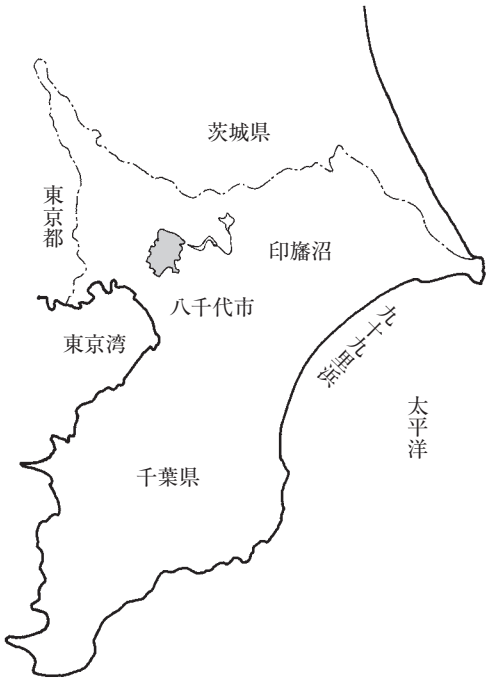
本整理　期間　平成26年１月７日～平成26年３月31日

4．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

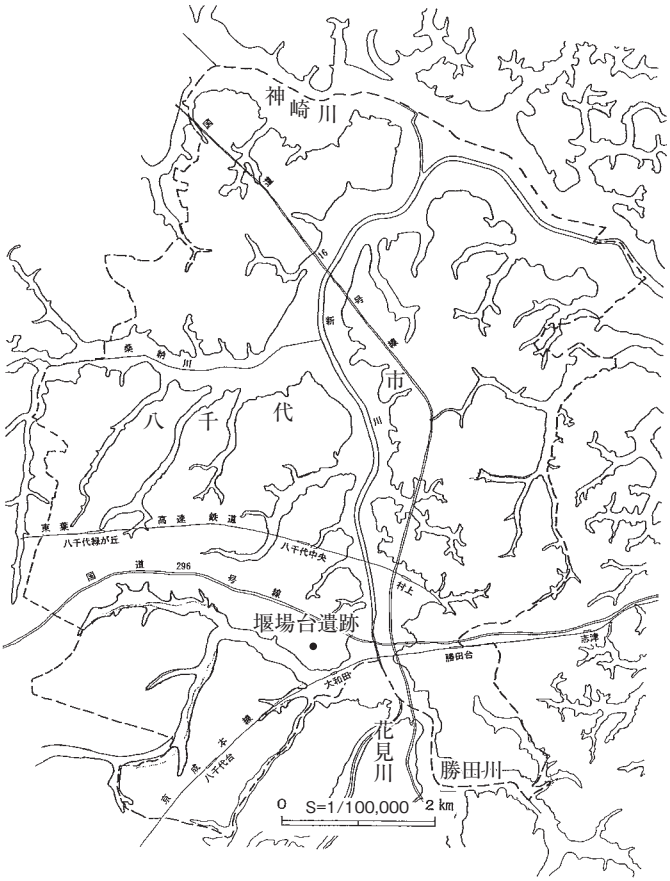
5．本書の図版作成は轟直行，小弓場直子が行ない，遺物実測図および遺物観察表の作成，遺物写真の撮影の一部を㈲原史文化研究所に委託し，編集・執筆は轟が担当した。

6．遺構No.は数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

竪穴住居跡：Ｄ　古墳：Ｋ　陥穴・土坑：Ｐ　その他の遺構：Ｉ



八千代市の位置



堰場台遺跡・堰場台古墳の位置

本 文 目 次

凡　例

目　次

第１章　調査経過及び概要
　第１節　調査に至る経緯と調査の概要……1
　第２節　堰場台遺跡・堰場台古墳の概要……1

第２章　検出された遺構と出土した遺物
　第１節　堰場台遺跡ａ地点　縄文時代……5
　第２節　堰場台遺跡ａ地点　古墳時代……9
　第３節　堰場台古墳ｂ地点……19

第３章　まとめ
　第１節　縄文時代……23
　第２節　古墳時代……23
　第３節　今後の課題……23

報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　堰場台遺跡周辺図
第２図　堰場台遺跡周辺の地形
第３図　遺構配置図
第４図　０１Ｐ～０３Ｐ実測図
第５図　０４Ｐ実測図
第６図　０４Ｐ出土遺物
第７図　０５Ｐ実測図
第８図　０１Ｄ実測図（１）
第９図　０１Ｄ実測図（２）
第10図　０１Ｄ出土遺物（１）
第11図　０１Ｄ出土遺物（２）
第12図　０１Ｄ出土遺物（３）
第13図　０１Ｄ出土遺物（４）
第14図　０２Ｄ実測図と出土遺物
第15図　０１Ｉ実測図と出土遺物
第16図　遺構外出土遺物
第17図　０１Ｋ実測図（１）
第18図　０１Ｋ実測図（２）
第19図　０１Ｋ出土遺物
第20図　八千代市内の石製模造品出土遺跡分布図

表 目 次

第１表　０４Ｐ出土遺物観察表
第２表　０１Ｄ出土遺物観察表
第３表　０２Ｄ出土遺物観察表
第４表　０１Ｉ出土遺物観察表
第５表　遺構外出土遺物観察表
第６表　０１Ｋ出土遺物観察表
第７表　八千代市内の石製模造品出土遺跡

写 真 図 版

図版１　作業風景（１）（２），０１Ｐ完掘，０２Ｐ完掘，０３Ｐ完掘，０４Ｐ遺物出土状況・完掘，０５Ｐ完掘
図版２　０１Ｄ遺物出土状況・焼土検出状況・炉検出・完掘，０２Ｄ遺物出土状況・炉検出・完掘，０１Ｉ遺物出土状況
図版３　０１Ｉ完掘，０１Ｋ遺物出土状況・完掘（１）（２），０４Ｐ出土遺物，０１Ｄ出土遺物
図版４　０１Ｄ出土遺物
図版５　０１Ｄ出土遺物
図版６　０１Ｄ出土遺物，０２Ｄ出土遺物，０１Ｉ出土遺物，０１Ｋ出土遺物

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯と調査の概要

平成24年10月，株式会社グランドラインコーポレーション代表取締役久保利栄氏（以下「事業者」という。）から，大和田字堰場台283番１・字堀込250番９の宅地造成事業のための確認依頼が八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。これに対して市教委は当該地に遺跡が所在する旨を回答し，取扱いの協議を行った。協議の段階では既存建物の他アスファルト・コンクリート舗装やテニスコートなどの施設が当該地に残っていて，充分な確認調査の実施は困難と判断されたため，事業者が建物以外の舗装等を撤去した後に確認調査を行なうこととした。平成24年10月に事業者から文化財保護法第93条第１項の規定による土木工事の発掘届が提出され，市教委は準備の整った12月26日に確認調査を開始した。

確認調査　確認調査は，平成24年度の市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し，対象面積7,806.27㎡のうち729㎡を調査した。その結果，遺構としては縄文時代竪穴住居跡１軒･陥穴１基･土坑４基，古墳時代竪穴住居跡３軒，古墳周溝１条が確認され，遺物としては縄文土器，古墳時代土師器が確認された。

保存協議　確認調査の結果をもとに協議範囲を1,030㎡とした。その上で市教委と事業者間で検討した結果，187.5㎡が盛土保存範囲となり，残りの842.5㎡は記録保存の措置をとることとなった。事業者は平成25年３月４日付けで保存協議書を提出し，市教委は３月５日付けでこれを了承した。市教委はこの保存協議書をもとに調査の見積もりを提示し，事業者は４月22日付けで調査依頼書を提出し，４月26日付けで市教委はこれを受託した。５月13日付けで市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し，同日に市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は事業者による既存施設撤去工事の進捗と調整しつつ，準備が整った７月１日に本調査を開始した。

調査の方法　基準杭の設定は調査対象地内で任意に10m方眼のグリッドを設定した後に公共座標を加え，遺構の測量は光波測量機を使用した。表土剥ぎは重機で行なった。

調査経過　１日は機材搬入・杭設置，２～４日は表土剥ぎを行なった。５日に各調査区の遺構検出写真を撮影し，遺構の調査を開始した。各調査区の調査はＡ区が26日，Ｂ区が30日，Ｃ区が23日，ＤおよびＥ区が18日，Ｆ区が24日，Ｇ区が25日にそれぞれ終了し，31日にすべての調査を終えて撤収作業を行なった。

遺物の洗浄や注記といった基礎整理は８月１日～９日まで行なった。本整理では遺物の実測および遺物観察表，遺物写真撮影の一部を㈲原始文化研究所に委託し，図版作成や原稿執筆は平成26年１月７日～２月７日まで行なった。

第２節　堰場台遺跡・堰場台古墳の概要

遺跡の立地　堰場台遺跡・堰場台古墳は八千代市の南部に位置し，遺跡の南側には市の中央を流れる新川の支流である高津川が流れている。遺跡は高津川と高津川より伸びる小支谷によって開析された台地上に位置し，標高は24m前後である。

これまでの調査　昭和58年（1983年）５月～６月に水道管の埋設工事中に箱式石棺が発見されたため，調査を行なった（八千代市教育委員会編2002）。その結果，11体分の人骨と直刀５振，多数の鉄鏃，刀子，耳環，ガラス玉などが出土した。箱式石棺の規模は長さ約2.1m，幅約0.9m，高さ約1.2mで，蓋石は４枚，側壁は左右それぞれ４枚ずつ，小口壁は１枚ずつ，底石にも４枚の板石が使われ，合計18枚の板石から

なる組合せ式の箱式石棺であった。

一方，今回調査を行なった地点は平成22年４月に当時の土地所有者から確認依頼があり，当該地が堰場台古墳の隣接地であったため，同年５月17日と19日に試掘調査を実施した。その結果，堰場台古墳の周溝と弥生時代終末期～古墳時代前期と思われる竪穴住居跡１軒を検出し，当該地に新発見の堰場台遺跡が所在することが明らかとなり，市教委は同年７月13日付けで千葉県教育委員会に堰場台遺跡発見の報告を行なった。

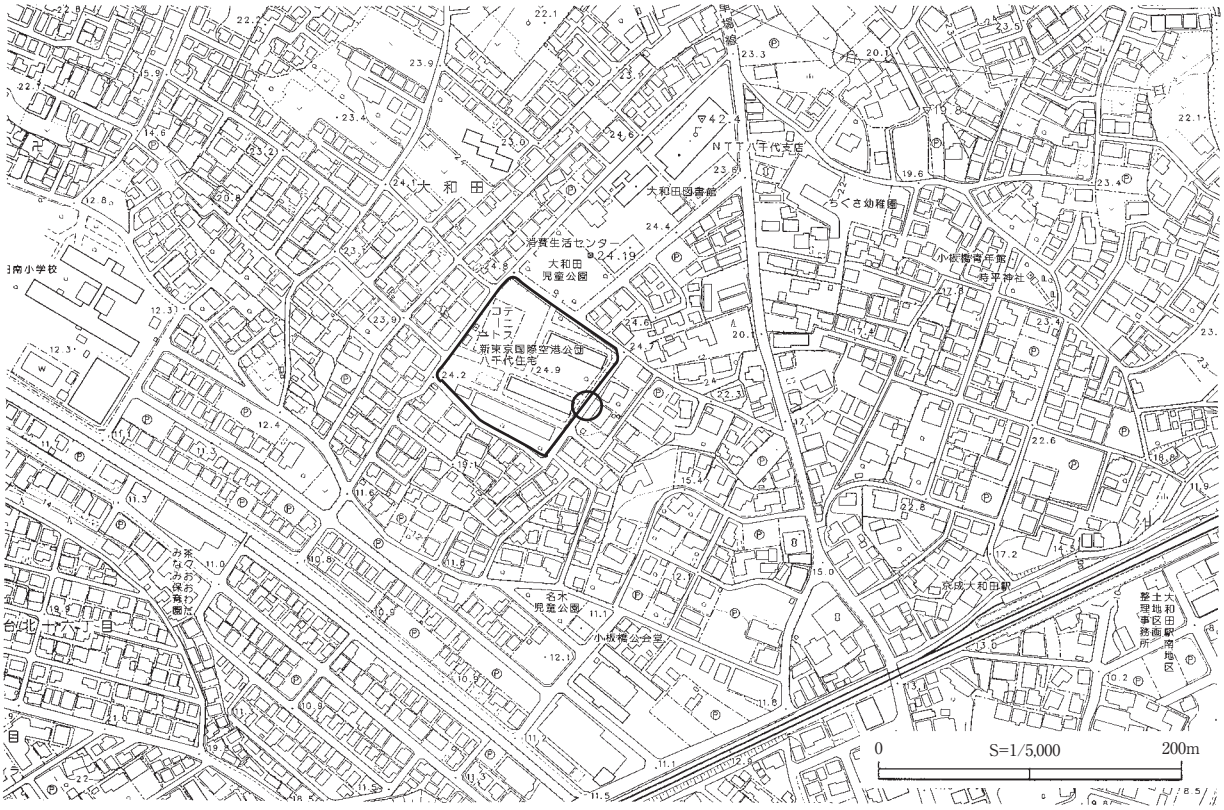
周辺の遺跡　大和田地区は，江戸時代にさくら道（のちの成田道，現国道296号線）の宿場町として栄えたと伝えられ，その後も八千代町の中心地として市街化が早くから進んだ。また，京成本線・国道296号線が通る市域南部は大和田以外も開発が早くから進められ，遺跡の所在把握は充分ではなかった。このため，市域南部は全体的に遺跡希薄地帯となっている。しかし，堰場台遺跡・堰場台古墳の北東方向には，古墳時代中期～後期の集落跡及び中世を主体とする小板橋遺跡があり，西方には高津川を挟んで，古墳時代後期及び平安時代の集落跡である内込遺跡，さらにその西隣に旧石器時代，縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代の集落跡である高津新山遺跡がある。高津川の流域に位置するこれらの遺跡では比較的濃密な遺構・遺物の分布が確認されている。

参考文献

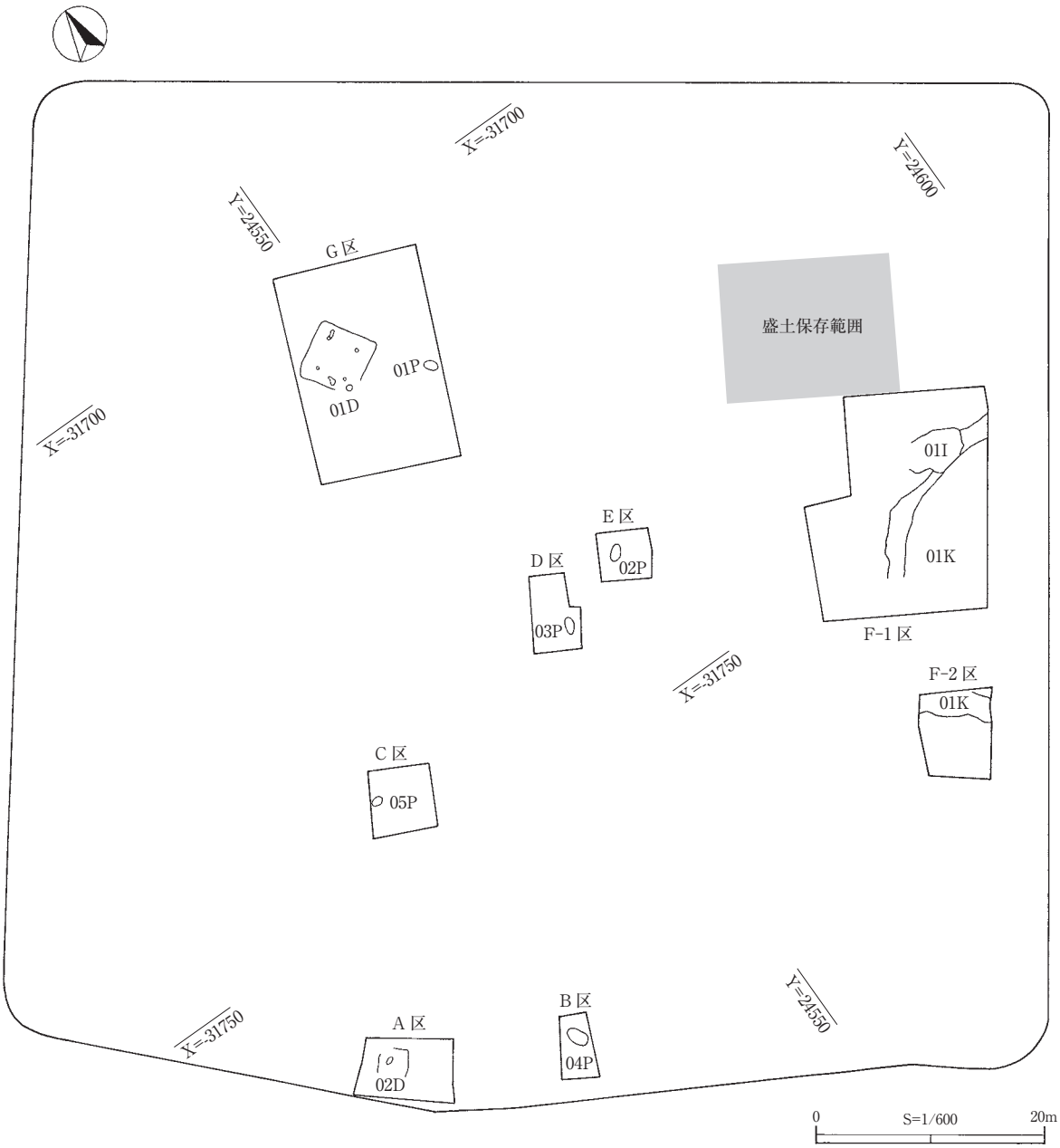
財団法人千葉県文化財センター1997『千葉県埋蔵文化財分布地図⑴　―東葛飾・印旛地区（改訂版）』㈶千葉県文化財センター

八千代市教育委員会編2002『千葉県八千代市市内出土人骨分析委託報告書』八千代市教育委員会

第１図　堰場台遺跡・堰場台古墳周辺図



第２図　堰場台遺跡・堰場台古墳周辺の地形



第３図　今回の調査で検出された遺構の位置

第２章　検出された遺構と出土した遺物

堰場台遺跡ａ地点では，陥穴１基を含む縄文時代の土坑５基，古墳時代の竪穴住居跡２軒と性格不明の竪穴状遺構１基，堰場台古墳ｂ地点では古墳の周溝１条を検出した。出土した遺物の総点数は654点で，内訳は縄文時代遺物12点（土器11点，石器１点），古墳時代遺物641点（土師器326点，土製品１点，石製模造品１点，石製模造品の未製品34点，原石２点，剥片・細片・礫・軽石277点），中世遺物１点（瓦質土器１点）である。

第１節　堰場台遺跡ａ地点　縄文時代

遺構としては陥穴１基を含む土坑５基を検出した。

０１Ｐ　調査区：Ｇ区　　時期：不明　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：楕円形　　規模：長軸1.22m×短軸0.73m×深さ0.27m

遺物　なし

０２Ｐ　調査区：Ｅ区　　時期：不明　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：楕円形　　規模：長軸1.38m×短軸0.92m×深さ0.38m

遺物　なし

０３Ｐ　調査区：Ｄ区　　時期：不明　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：楕円形　　規模：長軸1.60m×短軸(0.72)m×深さ0.28m

遺物　なし

０４Ｐ　調査区：Ｂ区　　時期：不明　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：楕円形　　規模：長軸2.00m×短軸1.30m×深さ2.00m

東西の断面は台形状に近い。北壁と南壁の壁は上端よりも奥側に掘り込まれ，底面および壁面には掘削した際の凹凸が見られた。

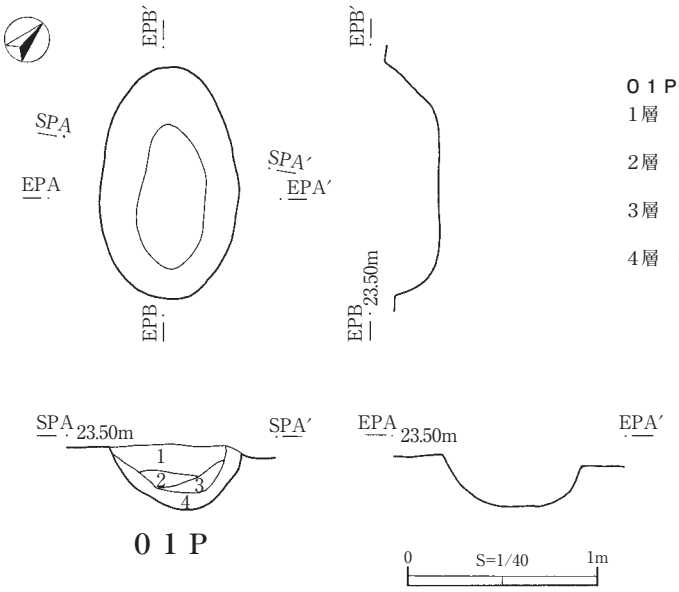
遺物　石鏃１点

完形品の石鏃が底面から出土した。

０５Ｐ　調査区：Ｃ区　　時期：不明　　検出面：ソフトローム層

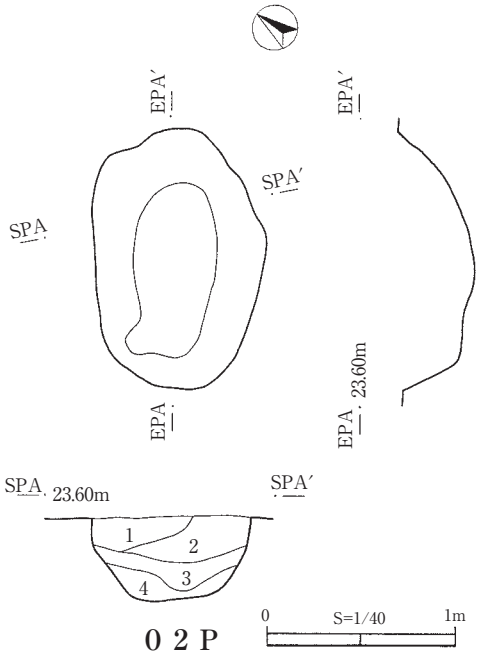
遺構　平面形態：不整円形　　規模：長軸1.00m×短軸0.82m×深さ0.18m

遺物　なし



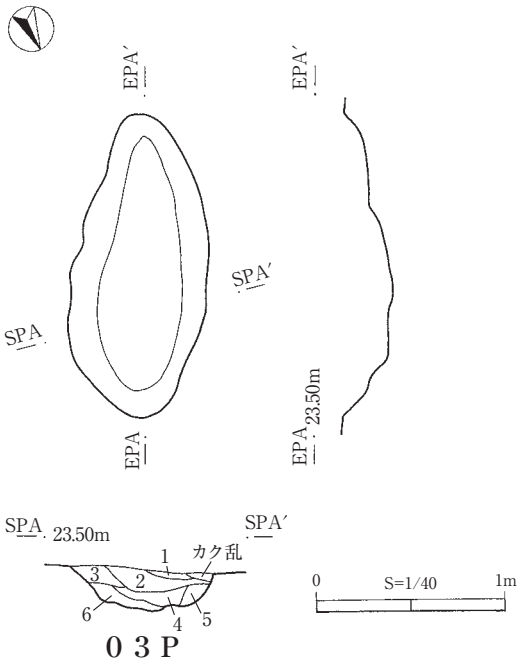
01P土層説明

1層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ローム粒子微量含む。
2層	暗褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
3層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ローム粒子微量含む。
4層	褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。



02P土層説明

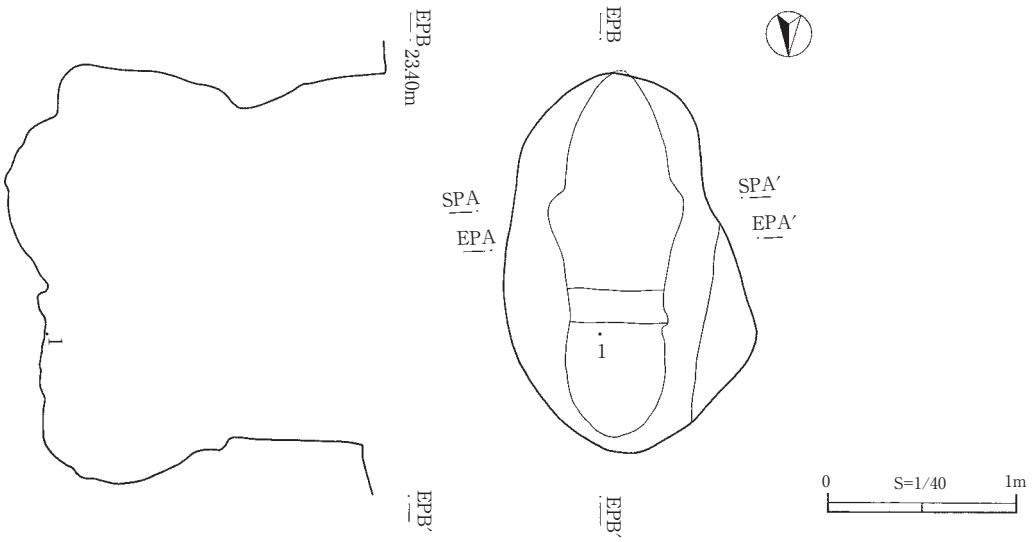
1層	褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
2層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量。黒色土粒子微量含む。
3層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
4層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。

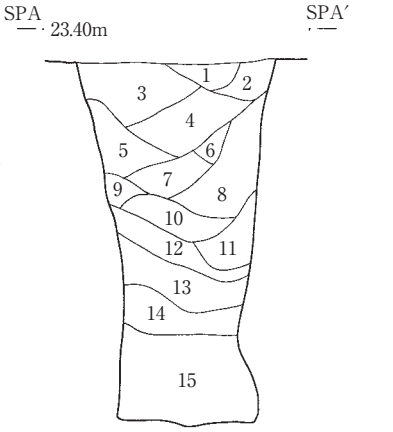


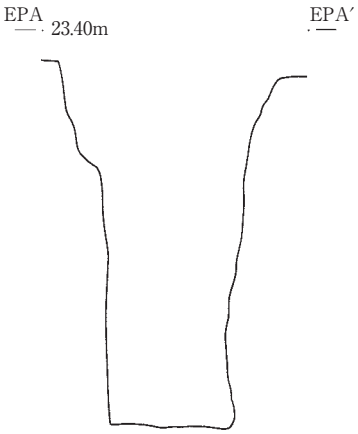
03P土層説明

1層	褐色土	しまり強い，粘性弱い，ロームブロック多量含む。
2層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ローム粒子微量，黒色土粒子微量含む。
3層	褐色土	しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子微量，黒色土粒子微量含む。
4層	暗褐色土	しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子微量，黒色土粒子微量含む。
5層	褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量，黒色土粒子微量含む。

第4図　01P～03P実測図



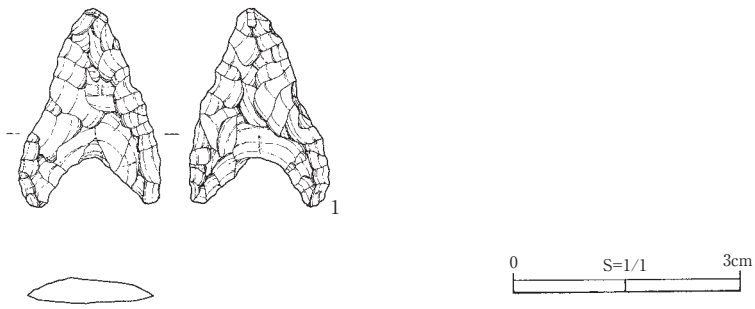




０４Ｐ　土層説明

１層	暗褐色土	しまり強い，粘性普通，ローム粒子・ブロック微量含む。
２層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
３層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。
４層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量，黒色土粒子微量含む。
５層	暗褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量，黒色土粒子微量含む。
６層	暗褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
７層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック少量，ローム粒子微量含む。
８層	暗褐色土	しまり普通，粘性弱い，ロームブロック・粒子多量含む。
９層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。
10層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
11層	暗褐色土	しまり弱い，粘性弱い，ロームブロック・粒子多量含む。
12層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性弱い，ロームブロック・粒子少量，黒褐色土ブロック微量含む。
13層	暗褐色土	しまり弱い，粘性弱い，ロームブロック・粒子多量含む。
14層	暗褐色土	しまり弱い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量，黒褐色土ブロック・粒子少量含み，土はボソボソしている。
15層	暗褐色土	しまりとても弱い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量，黒褐色土ブロック・粒子少量含む。土は非常にボソボソである。

第５図　０４Ｐ実測図

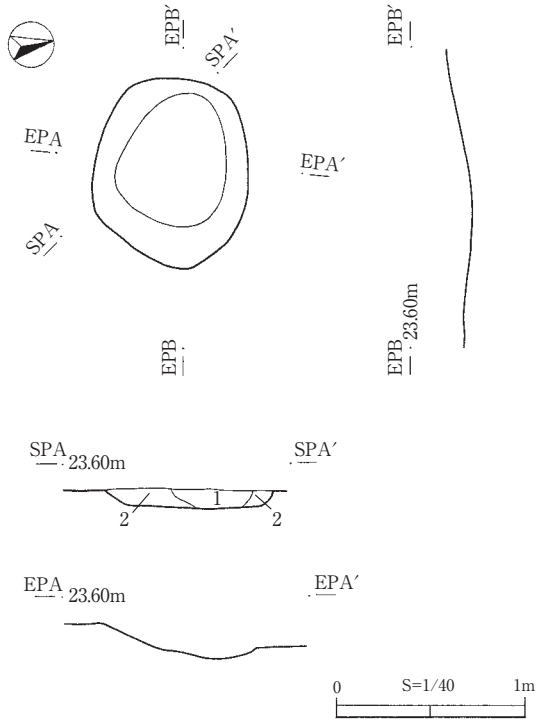


第６図　０４Ｐ出土遺物

第１表　０４Ｐ出土遺物観察表（第６図）

推定（　）　残存＜　＞

No.	器種	状態・部位	計測値（mm）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	石鏃	完存	長26.0 幅18.0 厚3.0　重1.1 g	○チャート		底面直上



０５Ｐ　土層説明

１層　褐色土　　しまりややあり，粘性弱い，暗褐色土を主体に少量のロームが混ざる。

２層　暗黄褐色土　しまりややあり，粘性弱い，暗褐色土を主体にしながらも多量のロームが混ざる。

第７図　０５Ｐ実測図

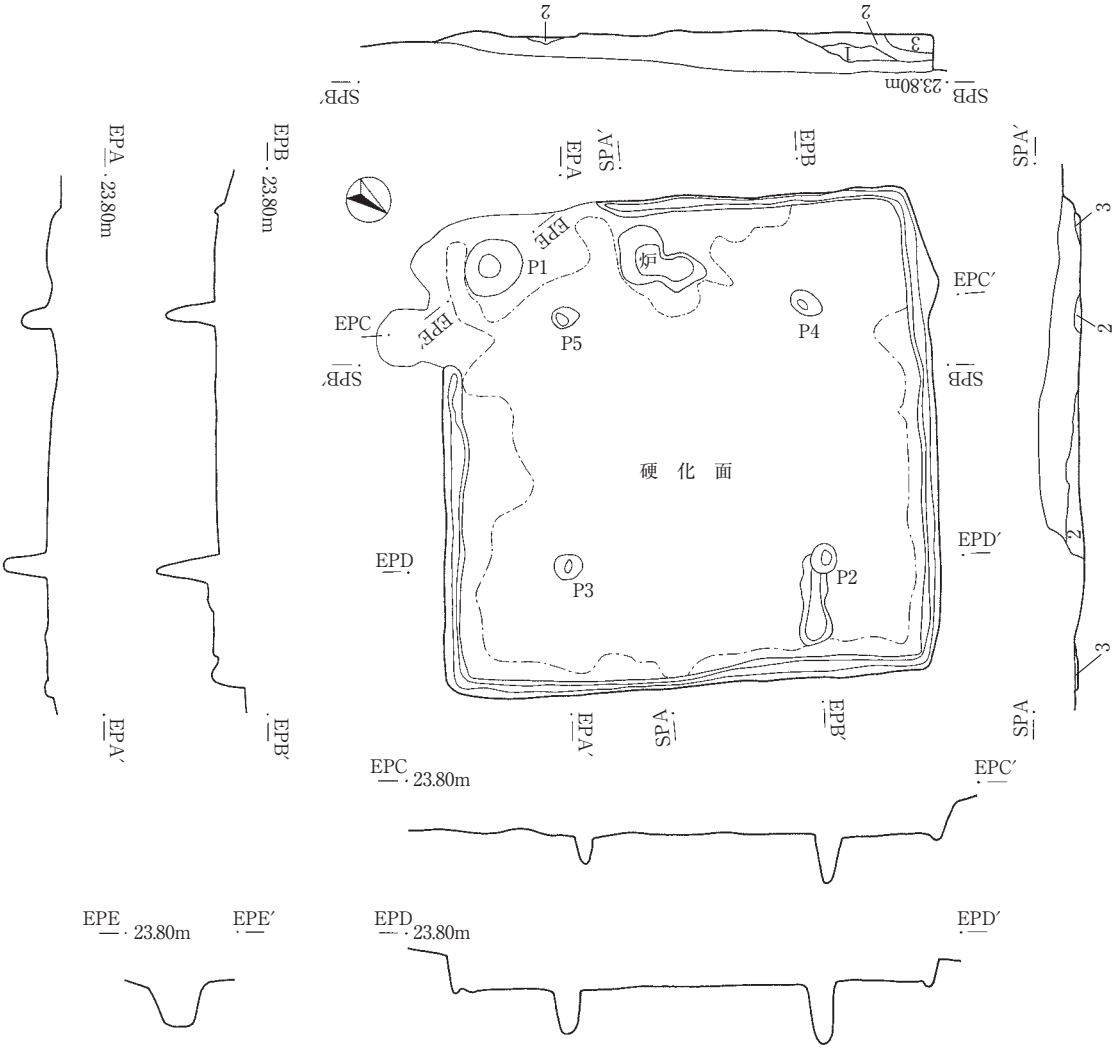
第２節　堰場台遺跡ａ地点　古墳時代

遺構としては中期の竪穴住居跡２軒と後期の竪穴状遺構１基を検出し，調査を行なった。

０１Ｄ　調査区：Ｇ区　　時期：中期　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：方形　　規模：長軸5.20m×短軸5.16m×深さ0.4m

本住居跡からは柱穴と思われるピット４基，貯蔵穴と思われるピット１基，炉１基，Ｐ２に接した用途不明の浅い溝１条，壁溝が確認された。ソフトローム層の地山が床面となっており，床面の硬化の度合いは弱い。床面から覆土にかけて焼土が面的に認められたが，２層中で検出されたことから本住居跡廃絶後の覆土の堆積途上で形成されたものと考えられる。なお，本住居跡の南側は撹乱がひどく，撹乱によって床面や壁面，壁溝の一部が壊され，炉も大部分が撹乱によって破壊されていた。

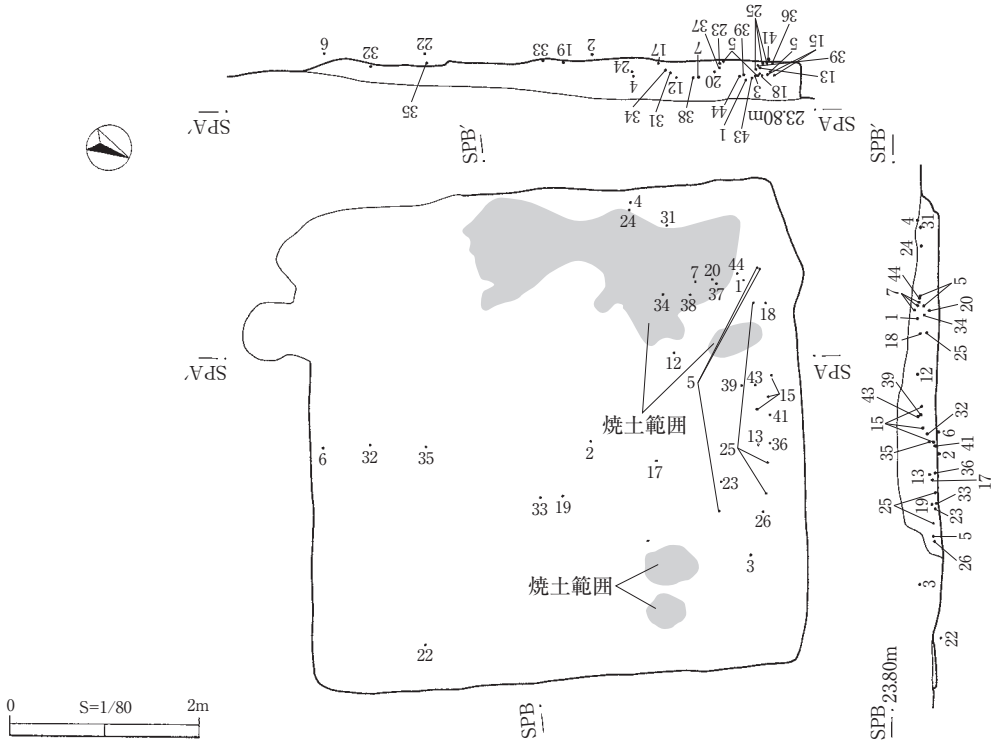


０１Ｄ層説明

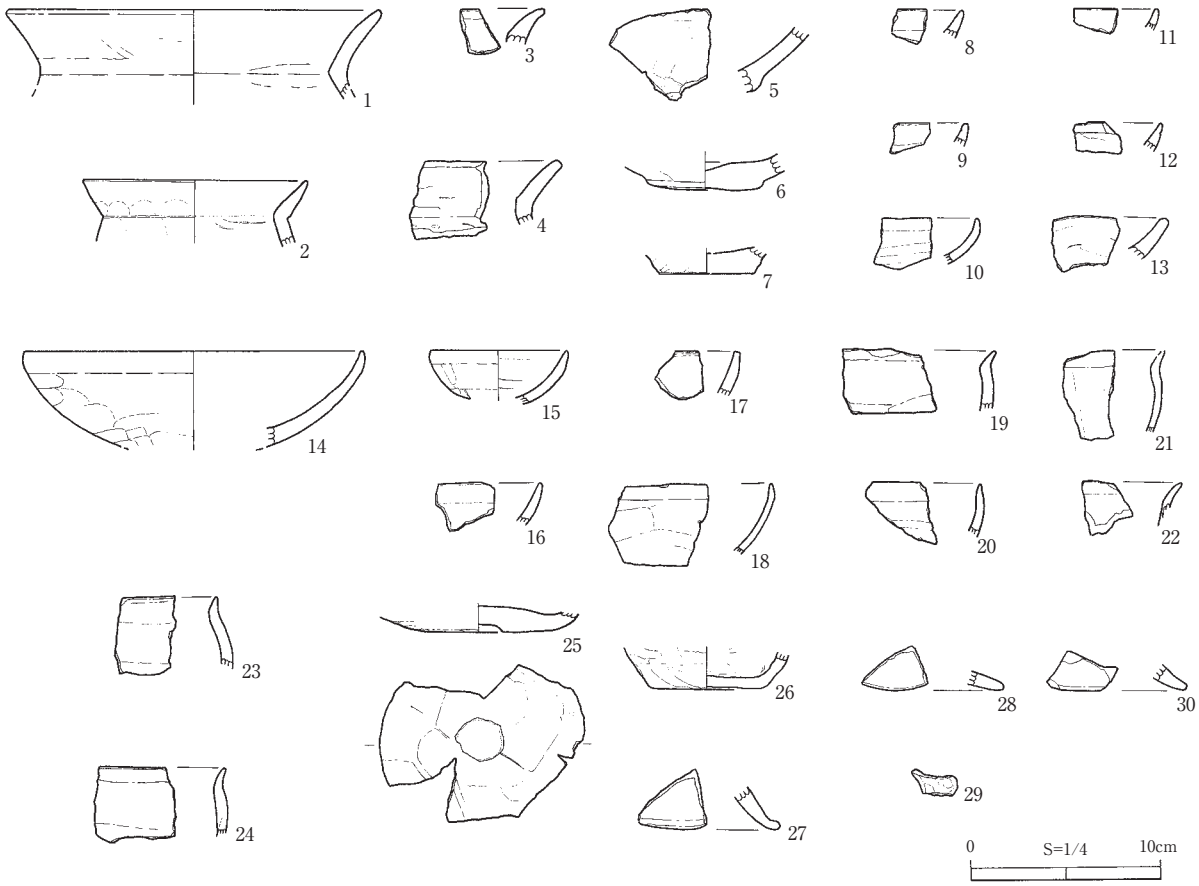
１層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性普通，ロームブロック・粒子微量，焼土微量含む。
２層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量，焼土ブロック・粒子微量含む。
３層	暗褐色土	しまり普通，粘性普通，ロームブロック・粒子微量，焼土微量含む。

0　S=1/80　2m

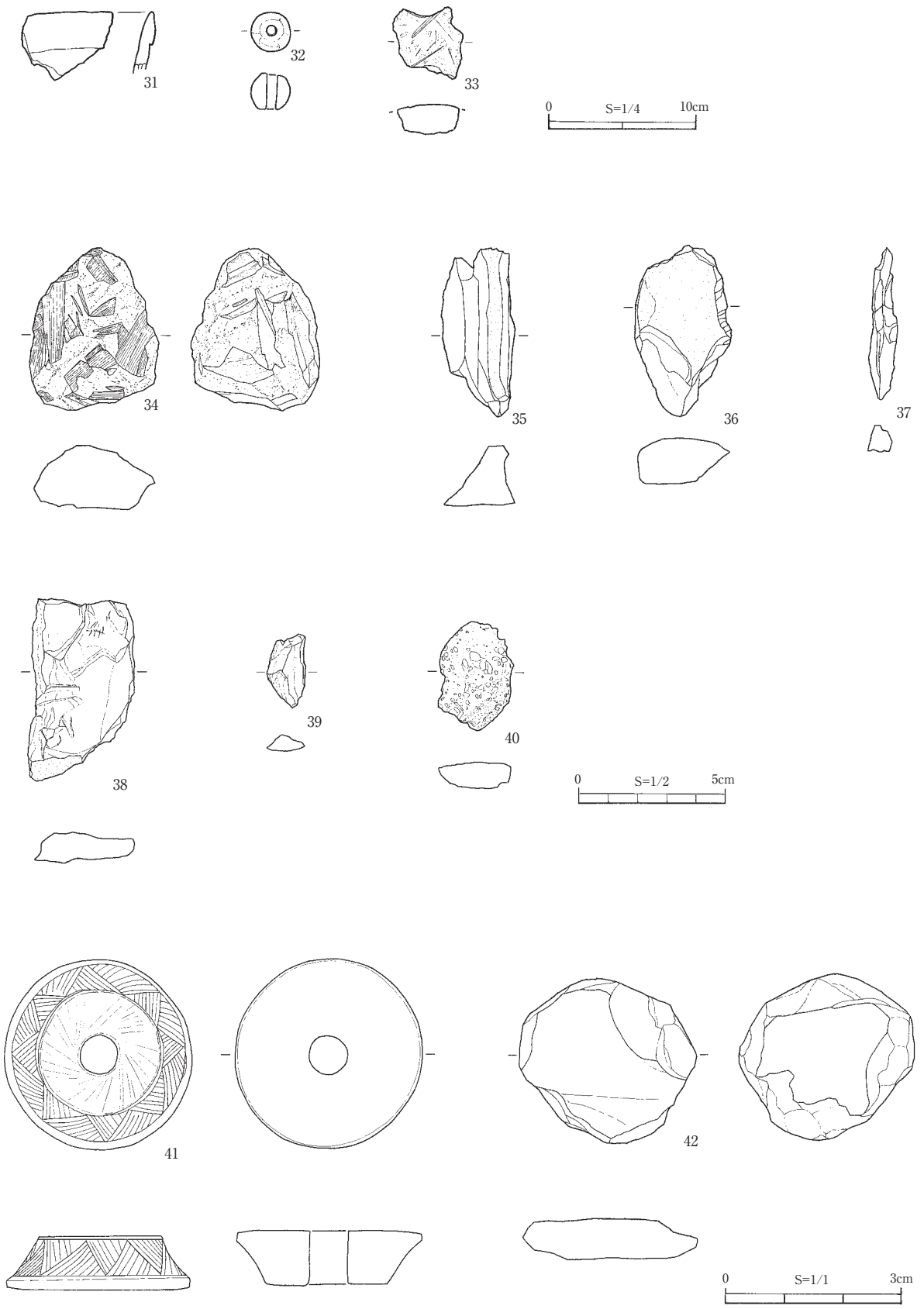
第８図　０１Ｄ実測図（１）



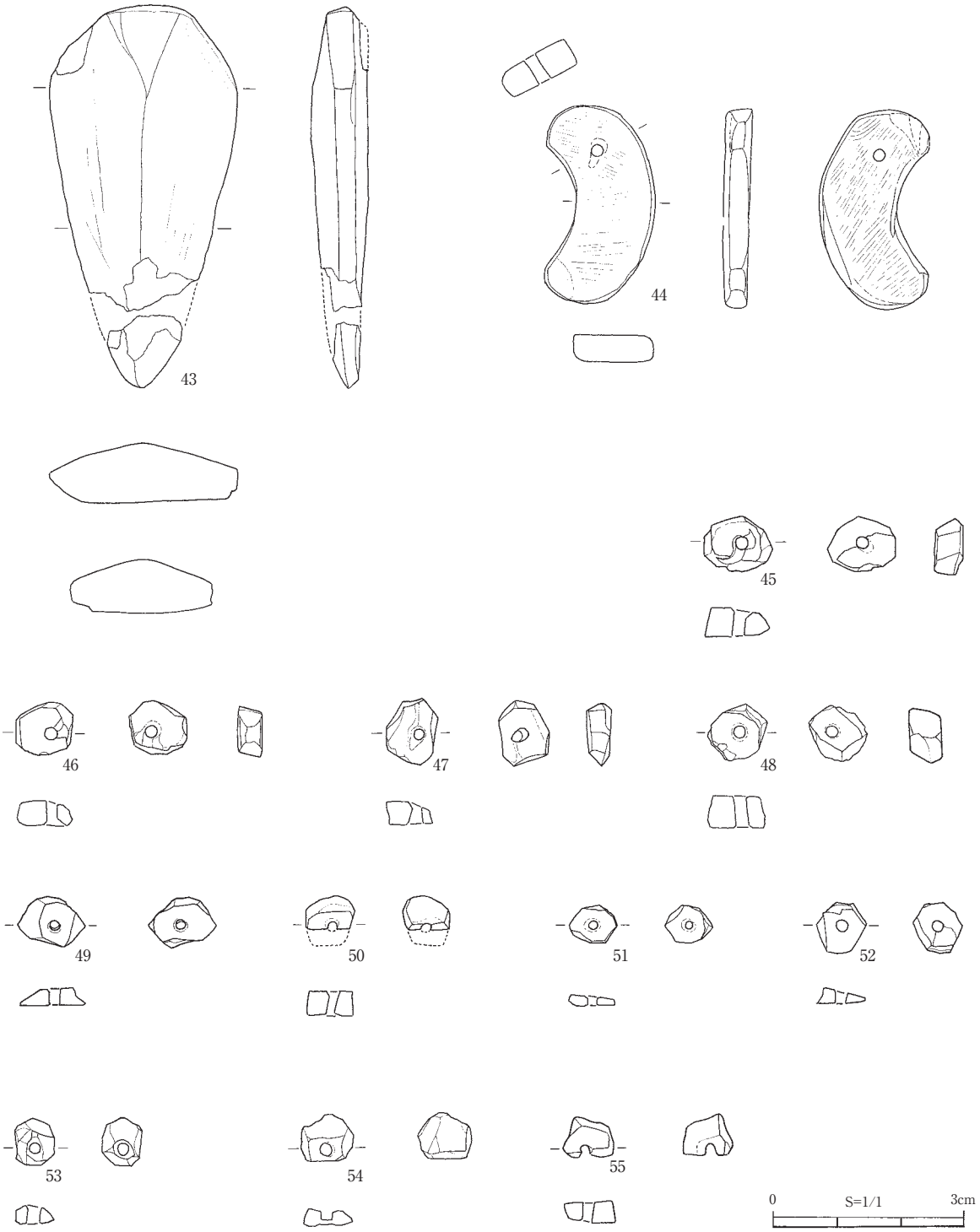
第９図　０１Ｄ実測図（２）



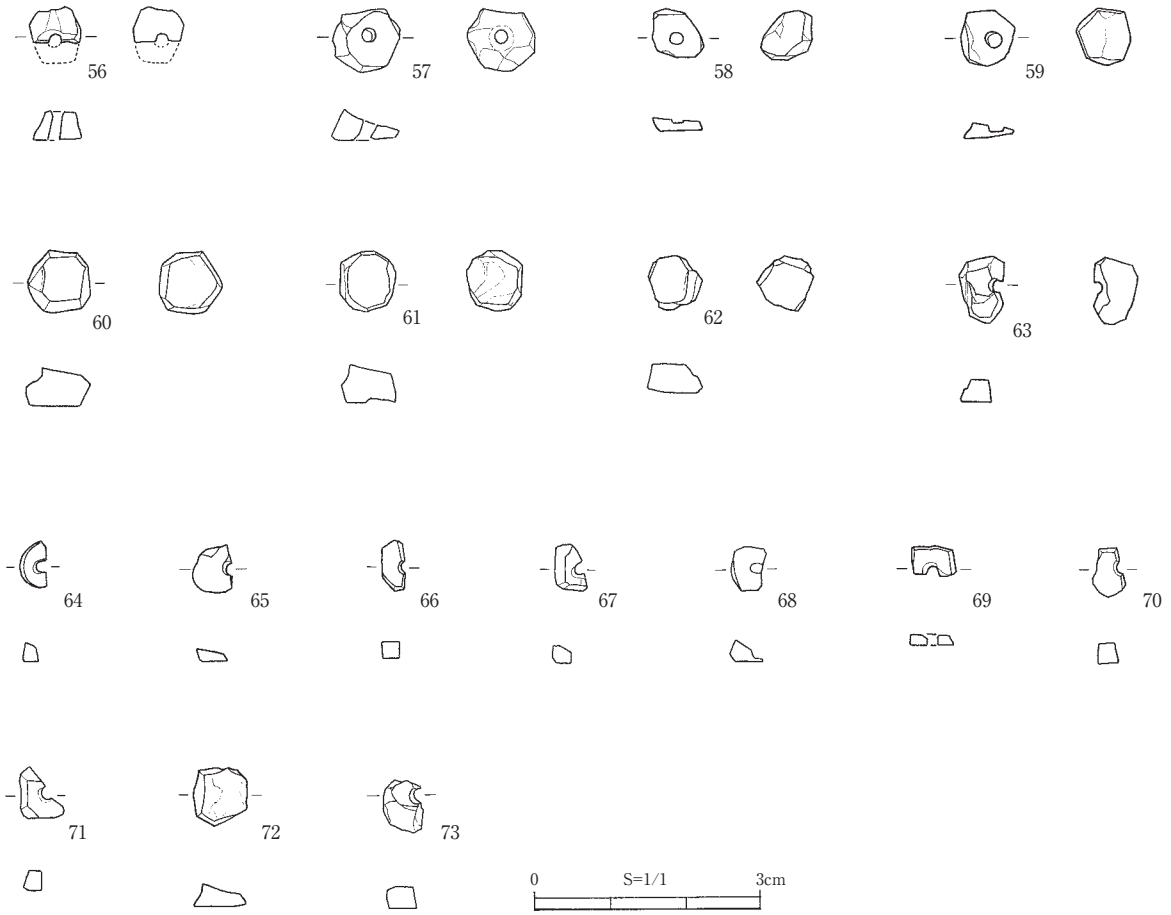
第10図　０１Ｄ出土遺物（１）



第11図　０１Ｄ出土遺物（２）



第12図　０１Ｄ出土遺物（３）



第13図　０１Ｄ出土遺物（４）

第２表　０１Ｄ出土遺物観察表（第10－13図）

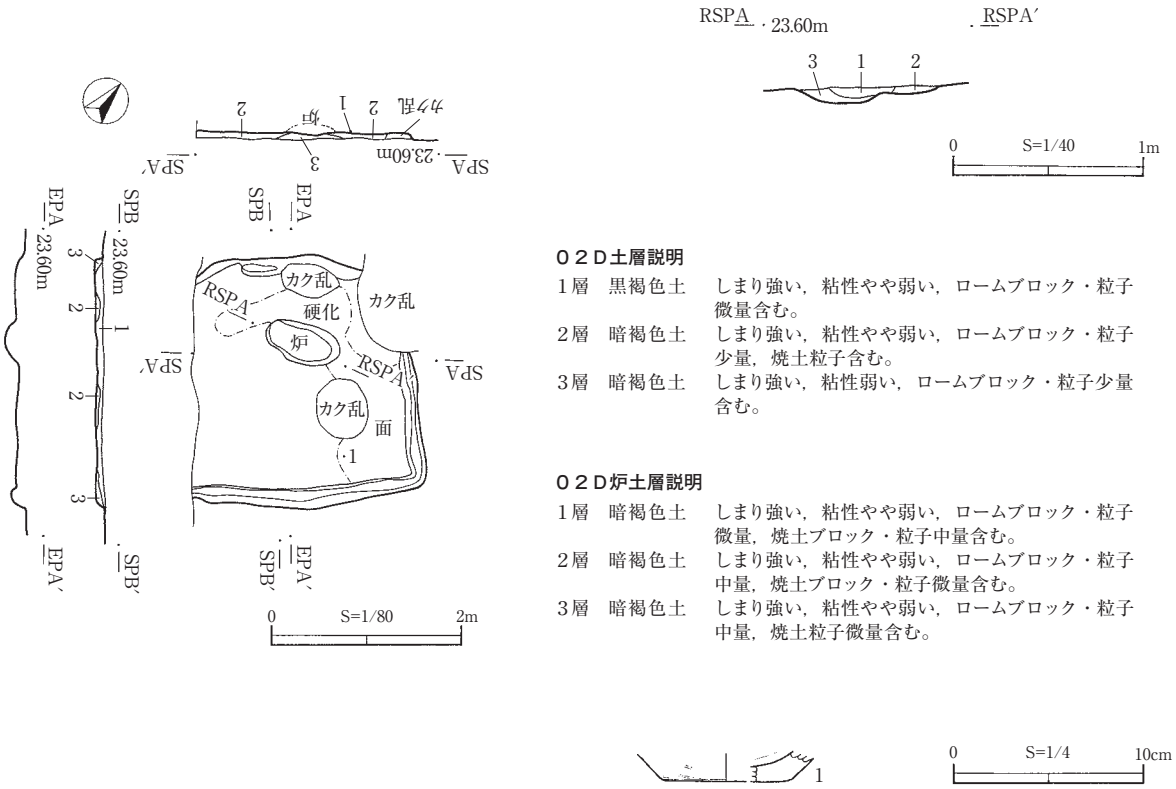
推定（　）　残存＜　＞

No.	器種・形態	状態・部位	計測値（mm）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	甕	口縁～頸部 （1/8）	口径(200.0)	○細砂粒・雲母粒（中） ●内）にぶい褐色～にぶい黄褐色 外）褐色～黒色	内）口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。 外）口縁部ヘラナデ，横ナデ，体部ヘラナデ。	覆土中
2	甕	口縁～胴上部 （約1/8）	口径(120.0) 高<33.5>	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色～褐灰色 外）にぶい黄橙色～明赤褐色	内）口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。 外）口縁部指頭による押さえ，胴部ヘラ削り，ヘラナデ。	床直
3	甕	口縁部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）褐色 外）褐色～暗褐色	内）ヨコナデ。 外）ヘラナデ。	覆土中
4	甕	口縁～頸部		○胎土密・雲母粒（少） ●内）褐色 外）にぶい褐色～黒褐色	内）口縁部ヨコナデ，頸部ヘラナデ。 外）口縁部ヨコナデ。	覆土中
5	甕	底縁部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）にぶい赤褐色～暗赤褐色 外）黒褐色	内）ヘラナデ。 外）ヘラ削り，ヘラナデ。	覆土中
6	甕	底部	底径(60.0) 高<11.5>	○細砂粒・雲母粒（中） ●内・外）褐色	内）ヘラナデ，ナデ。 外）ヘラナデ。 底外）ヘラ削り。	床直
7	甕	底部	底径(50.0) 高<10.0>	○細砂粒（多），雲母粒（少） ●内・外）褐色	内）ナデ。 外）胴部ヘラナデ。 底外）ヘラナデ。	覆土中
8	杯	口縁部		○胎土密，雲母粒（少） ●内）明赤褐色 外）褐色～灰褐色	内・外）ヨコナデ，口縁端部下内面に細沈線状の凹線有り。	P2 覆土中
9	杯	口縁部片		○胎土密，雲母粒（少） ●内）明赤褐色（赤彩） 外)にぶい黄褐色～明赤褐色(赤彩)	内・外）ヨコナデ，口縁部下内面に細沈線状の凹線有り。	覆土中

10	杯	口縁～体部上半		○細砂粒・雲母粒（少） ●内･外）明赤褐色（内外面とも赤彩）	内･外）口縁端部ナデ，体部ヘラナデ。	攪乱中
11	杯	口縁部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内･外）明赤褐色（内外面とも赤彩）	内）ヨコナデ，ナデ。 外）ヨコナデ。	覆土中
12	杯	口縁部		○胎土密，雲母粒（少） ●内・外）黒褐色	内）ヨコナデ。 外）ナデ。	覆土中
13	杯	口縁部		○細砂粒（極少），雲母粒（少） ●内・外）明赤褐	内）ヘラナデ，ナデ。 外）ヘラナデ。	覆土中
14	杯	口縁～体部 （1/4）		○胎土密，雲母粒（極少） ●内）明赤褐色 外）明褐色～橙色	内）口縁部ヨコナデ，ナデ，体部ナデ。 外）口縁部ヨコナデ，ヘラナデ。体部ヘラ削り，ヘラナデ。	攪乱中
15	小型杯	口縁～体部 （底部中央欠）	口径73.0 高<28.0>	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色（赤彩） 外）にぶい黄橙色～明赤褐色	内）ヘラナデ，ナデ。 外）口縁ヨコナデ。体部ヘラ削り，ヘラナデ。	攪乱中
16	杯	口縁～体部上半		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色（赤彩） 外）赤褐色（赤彩）	内）ヨコナデ。 外）口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。	攪乱中
17	杯	口縁部		○細砂粒・雲母粒（極少） ●内）明赤褐色 外）褐色	内・外）ナデ，口縁端部にナデによる凹線あり。	床直
18	杯	口縁～体部上半		○胎土密，雲母粒（少） ●内）赤褐色 外）明赤褐色	内）口縁部ヨコナデ，体部ナデ。 外）口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ，ナデ。	覆土中
19	椀	口縁～体部上半		○細砂粒（極少），雲母粒（少） ●内･外）暗赤褐色（内外面とも赤彩）	内）横ナデ。 外）口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，ヘラナデ。	覆土中
20	椀	口縁～胴上部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）にぶい黄褐色 外）橙色～黒褐色	内）横ナデ。 外）口縁部ヨコナデ胴部ヘラ削り，ヘラナデ。	覆土中
21	椀	口縁～体部上半 （口縁端部は極一部残）		○胎土密，雲母粒（少） ●内・外）にぶい褐色～橙色	内）口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。剥落あり。 外）ヘラナデ。	P1 覆土中
22	椀	口縁部		○細砂粒・雲母粒（少），小石（少） ●内）赤褐色（赤彩） 外）赤褐色～にぶい赤褐色（赤彩）	内・外）横ナデ。	床直
23	椀	口縁～胴上部		○細砂粒（極少），雲母粒（少） ●内）にぶい赤褐色 外）赤褐色～灰褐色	内）ヨコナデ。 外）口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。	床直
24	椀	口縁～体部上半		○細砂粒・雲母粒（少） ●内･外）明赤褐色（内外面とも赤彩）	内）ヨコナデ，粘土帯の輪積痕あり。 外）口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ。	覆土中
25	椀	底部		○細砂粒・雲母粒（中） ●内）明赤褐色～黒褐色 外）明赤褐色～褐色，（黒斑あり）	内）ヘラナデ。 外）ヘラ削り，中央部に凹み。	覆土中
26	椀	胴下部～底部	底径60.0 高<23.0>	○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色～にぶい赤褐色（赤彩） 外）明黄褐色～褐灰色	内）ヘラナデ，ナデ。《籾痕あり》 外）ヘラナデ，ナデつけ。 底外）指頭によるナデつけ，手捏状。	覆土中
27	高杯	脚裾部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明赤褐色 外）橙色	内・外）ヨコナデ。	P1 覆土中
28	高杯	脚裾部		○胎土密，雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色（内外面の端部赤彩）	内）ナデ，端部ヨコナデ。 外）ナデ。	攪乱中
29	高杯	脚の臍？		○細砂粒・雲母粒（少） ●明赤褐色	外）ヘラナデ，ナデ	P1 覆土中
30	高杯	脚裾部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明赤褐色	内・外）ヨコナデ。	攪乱中
31	鉢	口縁部 （折り返し口縁）		○細砂粒（多），雲母粒（中） ●内）明赤褐色 外）明褐色～褐色	内・外）ヘラナデ。	覆土中
32	土玉	完存	径27.0×27.0 高25.0 孔径7.5 重:15.0g	○細砂粒（中），雲母粒（少） ●にぶい黄褐色～黒褐色	指頭による押さえ，ナデ	覆土中
33	焼成 粘土塊	—	48×43×20 重:40 g	○細砂粒・雲母粒（少） ●明黄褐色～橙色，黒色	表面にスサ状の斜線痕が見られる。破砕後に被熱し断面に赤化面が見られる。	床直
34	原石 石製模造品未成品？	完存	長56.0 幅44.0 厚22.0	○滑石	刀子による削り痕が表裏に多くあり。未成品の可能性が強い。	覆土中

35	原石	欠損	長58.0 幅25.0 厚15.8	○滑石	断面に母岩形成時の層状堆積が認められる。	床直
36	原石	ほぼ完存	長58.0 幅33.0 厚15.9	○滑石	両側面の一部に刀子か鑿による削り痕あり。未成品（剣形？）の可能性あり。	床直
37	フレーク		長52.5 幅9.5 厚9.2	○滑石		覆土中
38	フレーク		長62.0 幅35.8 厚10.2	○滑石	大形剥片，中央部に刀子の刃によるキズあり。	覆土中
39	フレーク		長25.0 幅13.0 厚5.5	○滑石		覆土中
40	軽石	欠損	長37.2 幅25.5 厚9.3	○軽石　暗褐色		攪乱中
41	紡錘車	完存	径32.0×32.0 厚9.2 孔径6.7	○滑石	下面及び側面に線刻。側面は鋸歯状。	床直
42	石製模造品鏡形 未製品	ほぼ完存	径30.3×28.0 厚7.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
43	石製模造品剣形 未製品	切先部の一部欠損	長(60.0) 幅29.5 厚9.0	○滑石	鎬部は鈍角。下面・側面は未研磨部分が多い。未穿孔。	覆土中
44	石製模造品 勾玉 未成品	完存 頭頂部の一部剥離欠損	長31.0 幅12.5 厚4.3 孔径1.8	○滑石	扁平勾玉。表裏面・側面に研磨痕。ほぼ完成品。	覆土中
45	石製模造品臼玉 未製品	完存	径10.8×9.0 厚0.45 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
46	石製模造品臼玉 未製品	完存	径9.0×8.3 厚4.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
47	石製模造品臼玉 未製品	完存	径8.0×10.3 厚4.0 孔径上1.7下2.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
48	石製模造品臼玉 未製品	完存	径9.0×8.2 厚5.0 孔径2.0	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
49	石製模造品臼玉 未製品		径10.5×7.8 厚2.8 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
50	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径7.5×〈5.5〉 厚4.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フルイによる抽出
51	石製模造品臼玉 未製品	完存	径7.5×6.1 厚1.5 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フルイによる抽出
52	石製模造品臼玉 未製品	完存	径8.0×8.0 厚1.0～2.5, 孔径上2.0下1.7	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
53	石製模造品臼玉 未製品	完存	径6.2×7.5 厚4.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
54	石製模造品臼玉 未製品	完存	径8.4×7.3 厚3.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直 フルイによる抽出
55	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径8.0×〈6.5〉 厚3.5 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイによる抽出
56	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径7.8×〈4.8〉 厚4.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	P3 フルイによる抽出

57	石製模造品臼玉 未製品	完存	径9.0×8.5 厚1.5～4.3 孔径2.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	攪乱中
58	石製模造品臼玉 未製品		径7.0×6.5 厚1.9 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直
59	石製模造品臼玉 未製品		径7.3×7.5 厚2.0 孔径2.0	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直
60	石製模造品臼玉 未製品		径8.5×8.5 厚5.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
61	石製模造品臼玉 未製品	完存	径7.5×8.0 厚5.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	P3 フルイに よる抽出
62	石製模造品臼玉 未製品	完存	径7.0×7.0 厚3.8	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	P3 覆土中
63	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径8.8×〈6.0〉 厚3.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
64	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.0×〈3.5〉 厚2.5 孔径1.5	○滑石	穿孔→研磨途中で欠損。	床直 フルイに よる抽出
65	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.4×〈5.3〉 厚1.5 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
66	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.8×〈3.2〉 厚2.3 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
67	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.0×〈4.5〉 厚2.3 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
68	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.0×〈4.8〉 厚3.0 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔（未貫通）。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
69	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.0×〈4.2〉 厚1.3 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直
70	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.3×〈4.5〉 厚2.7 孔径1.5	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
71	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径6.8×〈5.8〉 厚2.8 孔径1.5～1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直 フルイに よる抽出
72	石製模造品　臼玉 未製品？		径7.0×7.8 厚3.0	○滑石	形割工程。未穿孔・未研磨。	床直
73	石製模造品臼玉 未製品	1/2欠損	径7.0×〈5.2〉 厚3.0 孔径1.8	○滑石	形割→穿孔。未研磨。	床直



０２Ｄ土層説明

１層	黒褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
２層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量，焼土粒子含む。
３層	暗褐色土	しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子少量含む。

０２Ｄ炉土層説明

１層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量，焼土ブロック・粒子中量含む。
２層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量，焼土ブロック・粒子微量含む。
３層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量，焼土粒子微量含む。

第14図　０２Ｄ実測図と出土遺物

第３表　０２Ｄ出土遺物観察表（第14図）

推定（　）　残存＜　＞

No.	器種	状態・部位	計測値（㎜）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	甕	底部	底径（70） 高<14>	○細砂粒・雲母粒（中） ●内）明赤褐色 外）明黄褐色，にぶい黄橙色，所々灰黄褐色	内・外）ヘラナデ。 底外）ナデ。	床直

遺物　土師器239点，土製品１点，焼成粘土塊１点，石製模造品１点，石製模造品の未製品34点，原石２点，剝片・細片261点，軽石２点

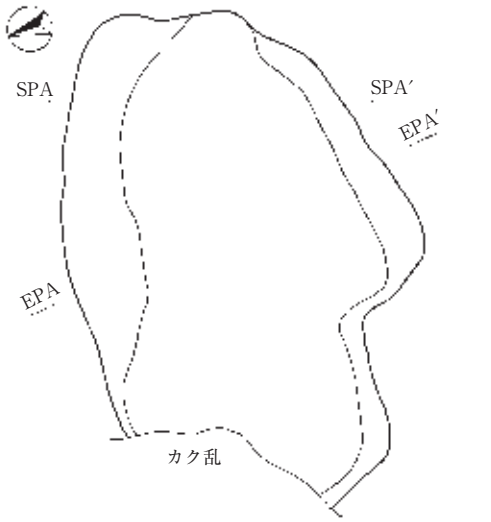
本住居跡からは石製模造品に関わる遺物が多数出土した。具体的には覆土中から勾玉や剣形石製模造品の未製品が出土し，床面直上からは鋸歯文が施された滑石製の紡錘車が出土した。そして，同じく床面直上からは鏡形石製模造品や臼玉の未製品，製作中に破損したと思われる臼玉の出土が認められた。さらに，石製模造品の製作に際して剝離されたと考えられる滑石の剝片や細片，原石が床面直上から覆土にかけて多数出土した。以上のことから，覆土中の未製品については本住居跡の用途と関連させることが難しいが，本住居跡は石製模造品の工房跡であった可能性が高いと思われる。

土器は覆土中から床面直上にかけて甕形土器や椀形土器，杯形土器，高杯形土器の破片が出土し，中心部に穿孔が施されたいわゆる土玉，焼成粘土塊も確認された。

０２Ｄ　調査区：Ａ区　　時期：中期　　検出面：ソフトローム層

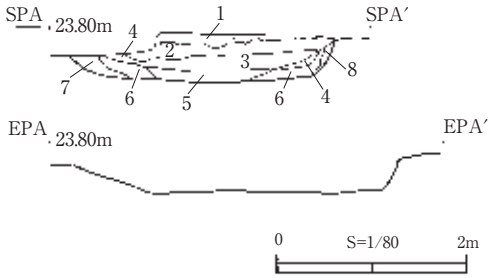
遺構　平面形態：方形　　規模：長軸2.68m×短軸（2.36m）×深さ0.08m

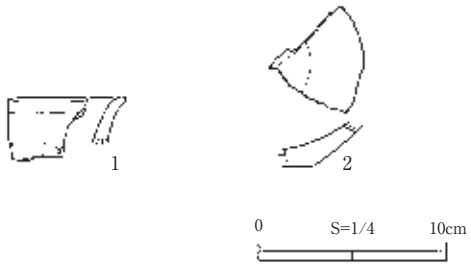
小形の住居跡で南西側は撹乱によって消失していた。本住居跡からは炉と壁溝が検出されたが，柱穴と考えられるようなピットは検出されなかった。01Dと同じくソフトローム層の地山が床面と



０１Ｉ土層説明

1層	褐灰色土	現代
2層	黒褐色土	しまり普通，粘性普通，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子微量，焼土微量含む。
3層	黒褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック微量，ローム粒子微量，焼土少量含む。
4層	黒褐色土	しまりやや弱い，粘性普通，暗褐色土ブロック多量，ローム粒子少量，焼土微量含む。
5層	黒褐色土	しまりやや弱い，粘性普通，暗褐色土ブロック中量，ロームブロック・粒子中量含む
6層	黒褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック多量，ロームブロック・粒子少量含む。
7層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
8層	黒褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子多量含む。





第15図　０１Ｉ実測図と出土遺物

第４表　０１Ｉ出土遺物観察表（第15図）　　推定（　）　残存＜　＞

No.	器種	状態・部位	計測値（mm）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	甕	口縁～胴上部		○雲母粒（少） ●内）赤褐色～褐灰色 外）黒褐色	内・外）ヨコナデ。	覆土中
2	甕	胴下部～底部		○細砂粒・雲母粒（中） ●内）褐色～黒褐色 外）にぶい黄褐色～黒褐色	内）器面剥落により不明。 外）ヘラ削り，ヘラナデ。	覆土中

なっており，床面の硬化の度合いは弱く，硬化面は本住居跡の北側で認められた。

遺物　土師器22点，石器の剝片・細片12点

本住居跡から出土した土器は細片が多く，図化できたのは甕形土器の底部１点のみである。また，図化はしなかったが，滑石の剝片・細片が複数出土している。

０１Ｉ　調査区Ｆ－１区　　時期：後期　　検出面：ソフトローム層

遺構　平面形態：不整円形　　規模：長軸5.56m×短軸3.92m×深さ0.24m

遺構の新旧関係：０１Ｋ→０１Ｉ

本遺構は０１Ｋの周溝を切って構築されている。本遺構に伴うようなピットなどは確認されず，平面形態も不整形であるため，その性格を窺い知ることはできなかった。

遺物　土師器14点

出土した土師器のうち覆土中から出土した甕形土器の口縁部と底部各１点ずつを図化した。いずれも古墳時代後期に属するものと思われる。

第16図　遺構外出土遺物

第５表　遺構外出土遺物観察表（第16図）　　推定（　）　残存＜　＞

No.	器種	状態・部位	計測値（mm）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	椀	口縁部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）明褐色～褐灰色 外）明赤褐色～褐灰色	内・外）ヨコナデ。	表採

遺構外出土遺物

古墳時代の杯形土器を１点図化した。

第３節　堰場台古墳ｂ地点

墳丘は削平されていたが，古墳の周溝を検出した。

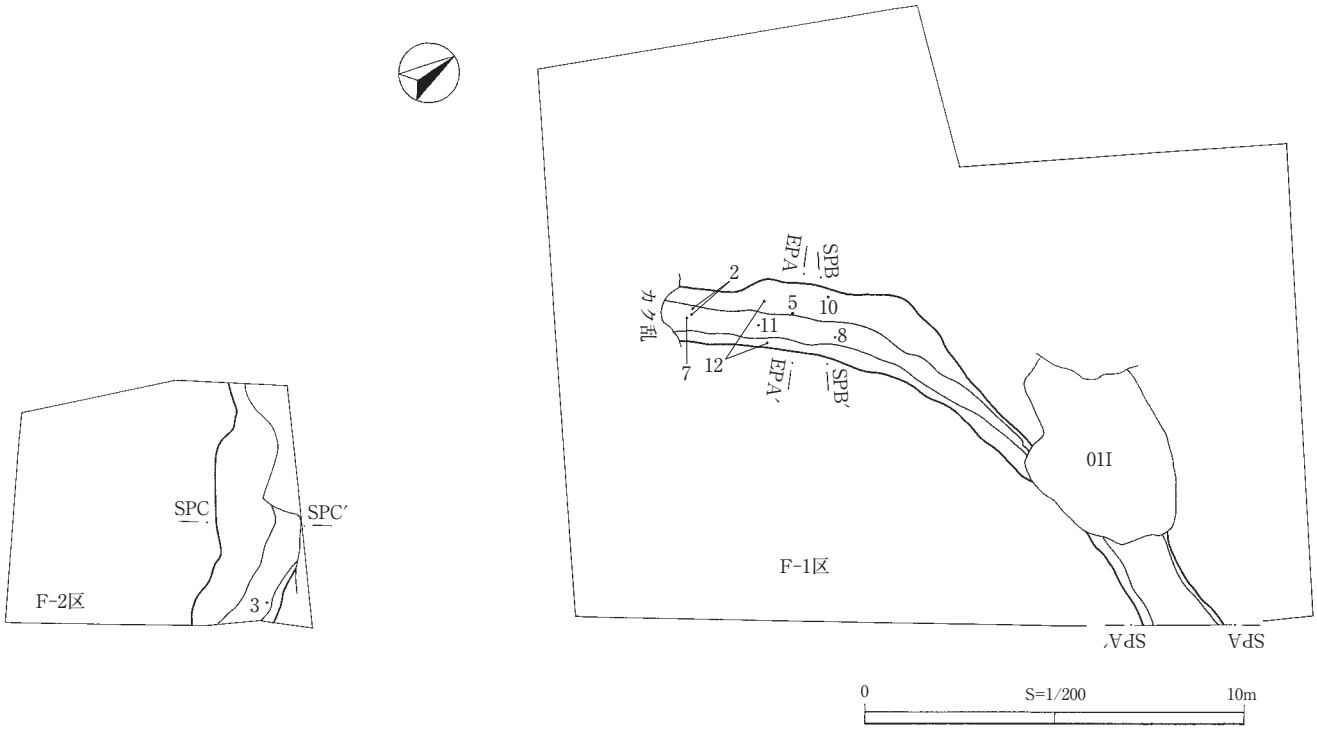
０１Ｋ　調査区：Ｆ－１・２区　　時期：後期　　検出面：ソフトローム層

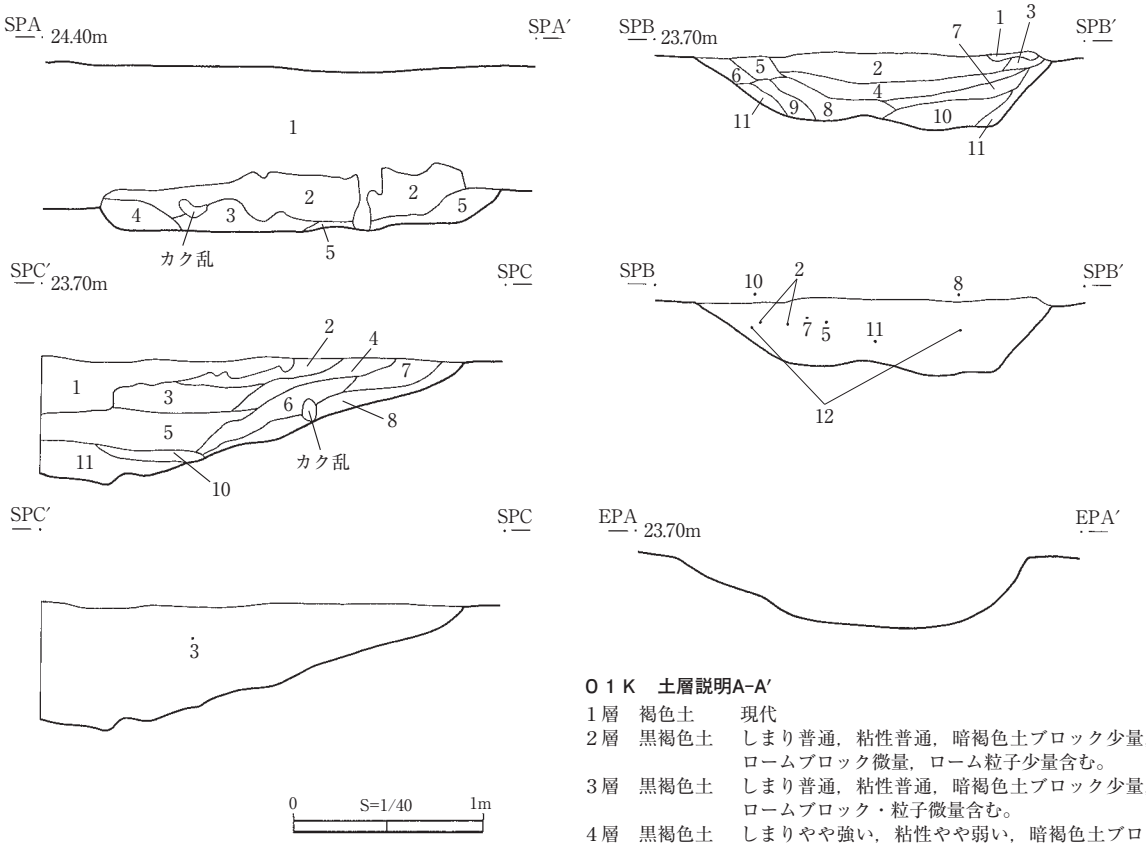
遺構　平面形態：円墳　　規模：直径27.50m　　遺構の新旧関係：０１Ｋ→０１Ｉ

墳丘は既に削平されていたため，今回検出されたのは周溝のみである。周溝は01Iに切られている。周溝の形態は墳丘側の立ち上がりが比較的均等な角度であるのに対し，反対側の立ち上がりの角度にはばらつきがある。この角度のばらつきに伴うかのように周溝の幅にもばらつきが認められ，広いところで上端の幅が2.06mあるのに対し，狭いところでは上端の幅が0.76mの場合もある。周溝の深さは検出面から浅いところで0.40m，深いところで0.62mであった。

遺物　土師器43点，石器の細片１点，縄文土器11点，瓦質土器１点

出土した土師器のうち甕形土器，椀形土器，甑形土器の破片を各１点ずつ，撹乱出土ではあるが，本遺構に伴う可能性のある高杯形土器１点を図化した。なお，本遺構は01Iに切られていたのだが，遺物は両遺構とも古墳時代後期のものであるため，両遺構の時期差は土器の型式差に表れない程度であったと推測される。他にも縄文土器や中世の土器が出土しており，６が阿玉台式，７～12が加曾利Ｂ式で11と12は同一個体，５が高台付瓦質土器である。





０１Ｋ　土層説明A-A′

１層	褐色土	現代
２層	黒褐色土	しまり普通，粘性普通，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック微量，ローム粒子少量含む。
３層	黒褐色土	しまり普通，粘性普通，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子微量含む。
４層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック中量，ロームブロック・粒子少量含む。
５層	黒褐色土	しまりやや弱い，粘性普通，暗褐色土ブロック多量，ロームブロック少量含む。

第17図　０１Ｋ実測図（１）

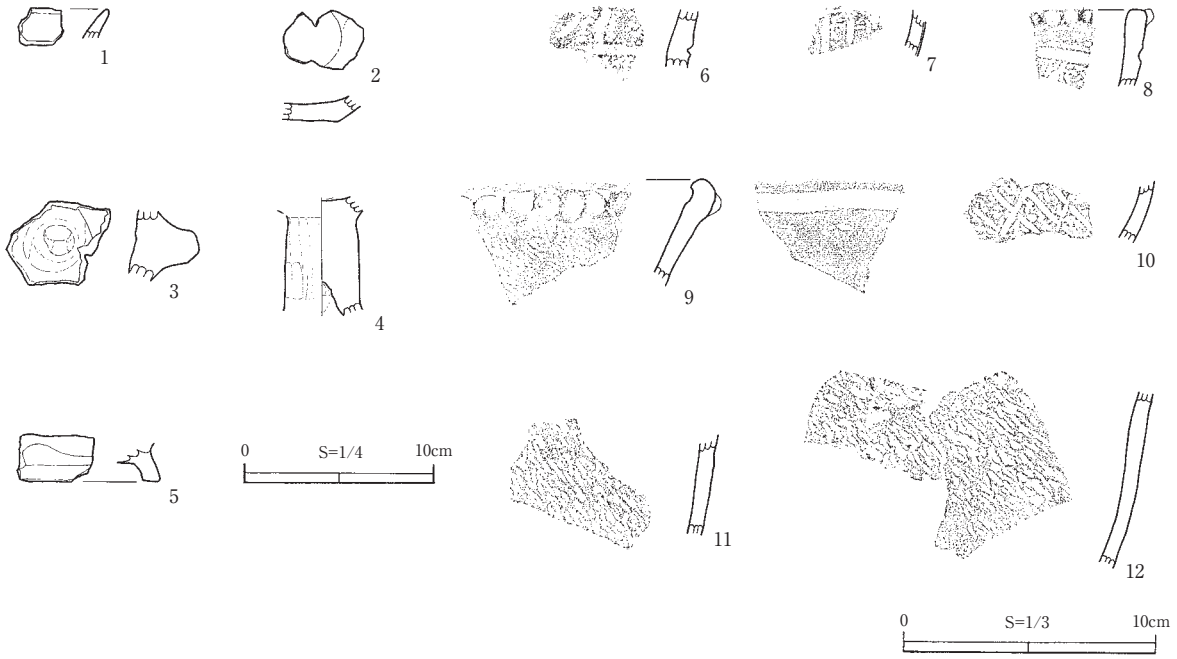
０１Ｋ　土層説明B-B′

１層	褐色土	現代
２層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子微量含む。
３層	黒褐色土	しまり強い，粘性普通，暗褐色土ブロック多量，ロームブロック・粒子微量含む。
４層	黒褐色土	しまり強い，粘性普通，暗褐色土ブロック中量，ロームブロック・粒子少量含む。
５層	暗褐色土	しまり強い，粘性やや弱い，黒褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子少量含む。
６層	暗褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子多量含む。
７層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，黒褐色土ブロック微量，黒色土粒子微量，ロームブロック・粒子微量含む。
８層	暗褐色土	しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子多量，黒色土粒子微量含む。
９層	暗褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。
10層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，黒色土ブロック微量，ロームブロック・粒子少量含む。
11層	暗褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。

０１Ｋ　土層説明C-C′

１層	褐色土	現代
２層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性普通，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子微量，焼土微量含む。
３層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子微量含む。
４層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，暗褐色土中量，ロームブロック・粒子微量含む。
５層	黒褐色土	しまり普通，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子微量含む。
６層	黒褐色土	しまりやや強い，粘性やや弱い，暗褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子少量含む。
７層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性やや弱い，黒褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子少量含む。
８層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性普通，黒褐色土ブロック微量，ロームブロック微量，ローム粒子少量含む。
９層	暗褐色土	しまり普通，粘性普通，黒褐色土ブロック少量，ロームブロック・粒子多量含む。
10層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性やや弱い，黒褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子中量含む。
11層	暗褐色土	しまりやや弱い，粘性やや弱い，黒褐色土ブロック微量，ロームブロック・粒子中量含む。

第18図　０１Ｋ実測図（２）



第19図　０１Ｋ出土遺物

第６表　０１Ｋ出土遺物観察表（第19図）

推定（　）　残存＜　＞

No.	器種	状態・部位	計測値（mm）	○胎土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	出土状況
1	甕	口縁部		○胎土密，雲母粒（極少） ●内・外）赤褐色	内）ナデ。 外）ヨコナデ。	覆土中
2	椀	底部		○細砂粒（中），雲母粒（少） ●内）極暗赤褐色 外）にぶい赤褐色	内）ナデ。 外）ヘラナデ。 底外）ヘラナデ。	覆土中
3	甑	把手	厚さ23.0	○細砂粒・雲母粒（中） ●内）明赤褐色 外）赤褐色	内）剥落著しく不明。 外）ナデ。	覆土中
4	高坏	脚部	脚径40.0	○細砂粒（中），雲母粒（少） ●内）極暗赤褐色 外）赤褐色（赤彩）	内）ヘラ削り，指頭によるナデ。 外）ヘラ削り，ナデ，裾部付近ヨコナデ・ナデ。	攪乱中
5	高台付瓦質土器	高台部		○密，長石粒・雲母粒（少） ●内）にぶい褐色 外）黒色	内）ナデ。 外）ヨコナデ，ミガキ。	覆土中
6	深鉢	胴部		○細砂粒（多），雲母粒（中） ●内）黒褐色～にぶい黄褐色 外）赤褐色～黒褐色	外）半裁竹管による押引き，沈線内にＬＲ縄文。	覆土中
7	深鉢	胴部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内）赤褐色 外）褐灰色～黒褐色	内）ナデ。 外）地紋ＲＬに平行沈線施す。	覆土中
8	深鉢	口縁部		○細砂粒・雲母粒（中） ●内）暗赤褐色 外）暗褐色～黒褐色	口縁端部外面に紐線貼付，ＬＲ縄文地紋に凹線施す。	覆土中
9	深鉢	口縁部		○細砂粒・雲母粒（少） ●内・外）明黄褐色	口縁部外面に紐線貼付，内面に凹線。	覆土中
10	深鉢	胴部		○胎土密，雲母粒（少） ●内）明黄褐色 外）明赤褐色～にぶい黄橙色	縄文地紋に格子目沈線。	覆土中
11	深鉢	胴部		○細砂粒・雲母粒（中） ●内・外）にぶい黄橙色～明黄色	内）ミガキ。 外）地紋ＲＬにＲの附加？	覆土中
12	深鉢	胴部		○細砂粒・雲母粒（中） ●内・外）にぶい黄橙色～明黄褐色	内）ミガキ。 外）地紋ＲＬにＲの附加？　炭化物付着。	覆土中

第３章　成果と課題

第１節　縄文時代

縄文時代の遺構としては土坑５基を検出したが，いずれも具体的な時期を特定できる土器などは出土しなかった。ただし，陥穴遺構である０４Ｐの底面からは石鏃が１点出土しており，陥穴が狩りのために構築されたものであることを踏まえると示唆的な出土状況である。

第２節　古墳時代

古墳時代の遺構としては中期の竪穴住居跡２軒，後期の円墳の周溝１条と性格不明の竪穴状遺構１基を検出した。今回検出された円墳の周溝は昭和58年（1983年）に調査された主体部に伴うものと考えられ，円墳のおよその規模を把握することができた。

一方，住居跡で注目すべきは石製模造品の工房跡と考えられる０１Ｄである。本遺構からは石製模造品の素材となる剝片を剥離するための母岩が出土しており，石製模造品の製作工程における荒割が行なわれていたようである。さらに，研磨されていない鏡形石製模造品や臼玉の未製品もあり，形割工程も行なわれていたことが確認できる。また，研磨途中の臼玉の未製品も１点出土したが，研磨によって生じる粉末状のものが遺構から検出されなかったため，主に石製模造品の製作における荒割→形割という工程が本遺構で行なわれていたと考えられる。

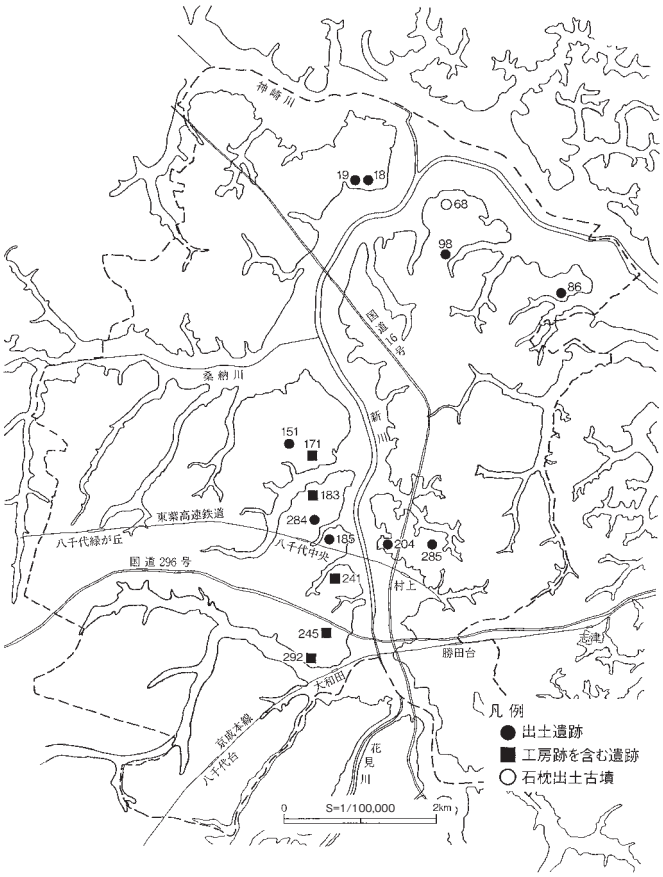
さて，八千代市内では小板橋遺跡や川崎山遺跡，権現後遺跡，北海道遺跡，道地遺跡で石製模造品の工房跡が確認されており，新川西岸に集中している。堰場台遺跡・堰場台古墳の石製模造品の工房跡もその例に漏れないのだが，新川西岸に石製模造品の工房跡が集中していた理由は何であろうか。これは八千代市とその周辺の古墳時代を考える上で重要な課題である。

第３節　今後の課題

堰場台遺跡・堰場台古墳では，昭和58年（1983年）の調査を除き，本調査が行なわれることはなかった。そのため，今回の調査で縄文時代の陥穴や古墳時代集落の存在を明らかにできたことは重要な成果であった。しかし，堰場台遺跡の理解については今回の調査が端緒となったに過ぎず，遺跡がどこまで広がりを持つのかという点が今後の課題である。

参考文献

おおびた遺跡調査団1975『おおびた遺跡』
財団法人千葉県教育振興財団文化財センター2006『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書５』
財団法人千葉県都市公社1975『八千代市村上遺跡群1974』
財団法人千葉県文化財センター2004『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書２』
財団法人千葉県文化財センター1984『八千代市権現後遺跡』
財団法人千葉県文化財センター1985『八千代市北海道遺跡』
財団法人千葉県文化財センター1987『八千代市井戸向遺跡』
財団法人千葉県文化財センター1991『白幡前遺跡』
八千代市遺跡調査会1980『萱田町川崎山遺跡』
八千代市遺跡調査会2003『千葉県八千代市川崎山遺跡ｄ地点』
八千代市遺跡調査会2004ａ『千葉県八千代市川崎山遺跡ｈ地点』



第20図　八千代市内の石製模造品出土遺跡分布図

八千代市遺跡調査会2004ｂ『千葉県八千代市向境遺跡』

八千代市遺跡調査会2007『千葉県八千代市浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡』

八千代市遺跡調査会2008『千葉県八千代市小板橋遺跡』

八千代市川崎山遺跡調査会1999『千葉県八千代市川崎山遺跡』

八千代市教育委員会1986『千葉県八千代市平戸道地遺跡』

八千代市教育委員会2007a『千葉県八千代市浅間内遺跡発掘調査報告書』

八千代市教育委員会2007b『千葉県八千代市権現後遺跡』

八千代市教育委員会2008『千葉県八千代市川崎山遺跡ｎ地点』

八千代市教育委員会2009ａ『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書』

八千代市教育委員会2009ｂ『千葉県八千代市道地遺跡ｅ地点・平戸台８号墳』

八千代市教育委員会2011『千葉県八千代市麦丸遺跡ｈ地点』

八千代市史編さん委員会1978『八千代市の歴史』

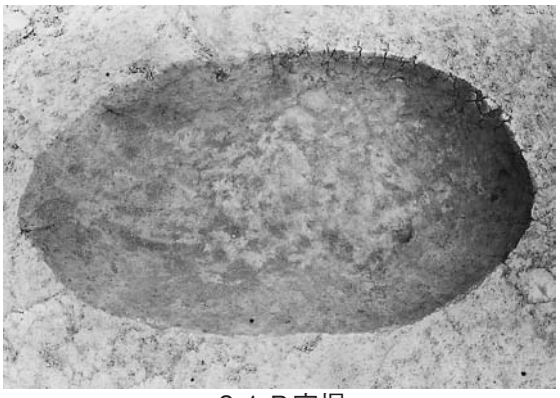
第７表　八千代市内における石製模造品の関連遺物出土遺跡

通No.	市遺跡No.	遺跡名	遺構No.	原石	石片	臼玉			剣形			勾玉			円板			双孔円板			有孔円板			その他		時期	文献
						未成	完成	その他	未成	完成	その他	未成	完成	その他	未成	完成	その他	未成	完成	その他	未成	完成	その他				
1	18	道地遺跡ａ地点	３号									1								2						古墳時代中期	八千代市教育委員会（以下「市教委」）1986年
			５号							1																古墳時代中期	
			８号																					1		不明	
		ｅ地点	確認２Ｍ							1																奈良平安時代	市教委2009年ａ
			１Ｍ																	1						奈良平安時代	市教委2009年ｂ
		船橋印西線2	003号																	1						古墳中期後半土器溜まり	財団法人千葉県文化財センター（以下「千文セ」）2004年
			017号																2							弥生時代後期	
			014号								1		1						1					1		古墳時代中期	
			018号										1						6							古墳時代中末～後期初	
			019号							1									1							古墳時代中期	
			020Ａ号																1					1		古墳時代中～後期	
			遺構外																2								
		船橋印西線5	106住																	2						古墳時代後期	財）千葉県教育振興財団2006年
			小計							3	1	1	2						13	6				3			
2	19	平戸台８号墳	石棺内				2																				市教委2009年ｂ
3	68	神野芝山４号墳	主体部																					1	石杭	古墳時代中期	八千代市史編さん委1978年
4	86	おおびた遺跡	第３号南							1																古墳時代中期	おおびた遺跡調査団1975年
5	98	向境遺跡	A003																1							古墳時代中期	八千代市遺跡調査会（以下「八遺調」）2004年ｂ
			A006																					1		古墳時代中末～後期初	
			A007				1																			古墳時代中末～後期初	
			小計				1												1					1			
6	151	麦丸遺跡ｈ地点	遺構外																	1							市教委2011
7	171	権現後遺跡	Ｄ035	1	2,136	27	12			1																古墳時代中期	千文セ1984年
			Ｄ131	4	11,225	275	33			1			1			1								1		古墳時代中期	
			Ｄ132	1	5,908	98	28			1			1													古墳時代中期	
			Ｄ133	4	14,881	446	46						1			1								1		古墳時代中期	
			Ｄ099							1																古墳時代後期	
		ａ地点	３号																1							古墳時代後期	市教委2007年b
			小計	10	34,150	846	119			4			3			2			1					2			
8	183	北海道遺跡	Ｄ010	5	703	282	7	8									1									古墳時代中期	千文セ1985年
			Ｄ011	4	1,338	111	4										3		2					6		古墳時代中期	
			Ｄ012	12	48,472	1,862	48				1			3				2	4					2	滕	古墳時代中期	
			Ｄ013	2	2,498	143	6																			古墳時代中期	
			Ｄ014	6	11,622	927	39				2	1	2	3			10		1					53		古墳時代中期	
			Ｄ016	6	7,615	532	43	21				1	2					1	2	3				7		古墳時代中期	
			Ｄ022	5	8,600	387	8	58		3							9		1	2				9		古墳時代中期	
			Ｄ055				5																			古墳時代中期	
			Ｄ057				2																			古墳時代中期	
			Ｄ058	1	423	40	4	1						1												古墳時代中期	
			Ｄ059	8	4,139	284	55	10		1				1			4	3	13	9				1		古墳時代中期	
			Ｄ080		4,718	303	18	25																		古墳時代中期	
			Ｄ036			2	1																			古墳時代中期	
			Ｄ039	3	35	1	3	1											1							古墳時代中期	
			Ｄ021	1	29			2					1													古墳時代中期	
			Ｄ001									2														古墳時代後期	
			Ｄ037	1	3,723	316	12	15			1									1				2		古墳時代後期	
			小計	54	93,915	5,190	255	141		4	4	4	5	8			27	6	24	15				80			
9	284	井戸向遺跡	Ｄ087				2																			古墳時代後期	千文セ1987年
10	185	白幡前遺跡	Ｄ163										1													平安時代	千文セ1991年
			Ｄ101								2								1							奈良平安時代	
			小計								2		1						1								
11	241	川崎山遺跡ａ地点	第5号		443	46	4		1				2								1		2	6	薬玉	古墳時代中期	八遺調1980年
			第6号		50																1					古墳時代中期	
		ｃ地点	第24号							1																古墳時代中期	八千代市川崎山遺跡調査会1999年
		ｄ地点	25Ｄ										1													古墳時代中期	八遺調2003年
		ｈ地点	03Ｄ	2	9	45	2		4				1		8			1			1			1		古墳時代中期	八遺調2004年ａ
			06Ｄ	1	5	48			4	1					3	1										古墳時代中期	
		ｎ地点	01Ｄ																1			1				古墳時代中期	市教委2008年
			小計	3	507	139	6		9	2			4		11	1		1	1		3	1	2	7			
12	245	小板橋遺跡	1号	2	238	8	1																	1		古墳時代中期末～後期初	八遺調2008年
13	204	浅間内遺跡2次・3次	Ｄ34				1		1																	古墳時代前～中期	市教委2007年a
			Ｄ70				3																			古墳時代前～中期	
			Ｄ24				21	9																		古墳時代中～後期	
			Ｄ21										1													奈良時代	
			Ｄ40				1																			平安時代	
		7次	7次遺構外							1																	八遺調2007年
			小計				26	9	1	1			1														
14	285	村上第１号古墳	前庭部				1																			古墳時代終末期	財）千葉県都市公社1975年
15	292	堰場台遺跡ａ地点	01Ｄ	2	261	31			1			1			1											古墳時代中期	本報告
			02Ｄ		12																					古墳時代中期	
			小計	2	273	31			1			1			1												
合　計				71	129,083	6,214	413	150	11	15	7	6	16	8	12	3	27	7	41	22	3	1	2	95			

図版１

作業風景（１）

作業風景（２）


０１Ｐ完掘

０２Ｐ完掘

０３Ｐ完掘

０４Ｐ遺物出土状況

０４Ｐ完掘

０５Ｐ完掘

０１Ｄ遺物出土状況

０１Ｄ焼土検出状況

０１Ｄ炉検出

０１Ｄ完掘

０２Ｄ遺物出土状況

０２Ｄ炉の検出状況

０２Ｄ完掘

０１Ｉ遺物出土状況

図版３

０１Ｉ完掘

０１Ｋ遺物出土状況

０１Ｋ完掘（Ｆ−１区）

０１Ｋ完掘（Ｆ−２区）

０４Ｐ出土遺物

０１Ｄ出土遺物

０１Ｄ出土遺物

15

24

25

26

31

32

33

34

35

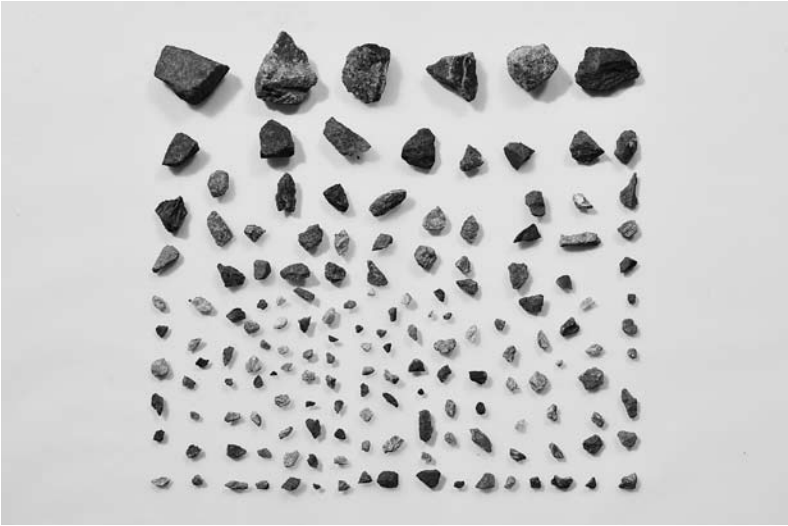
36

37

38

図版５

０１Ｄ出土遺物



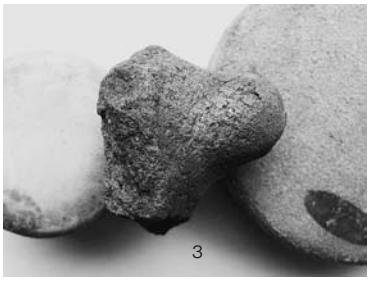
石製模造品関連の剝片・細片

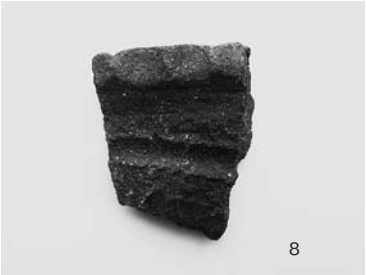
０１Ｄ出土遺物

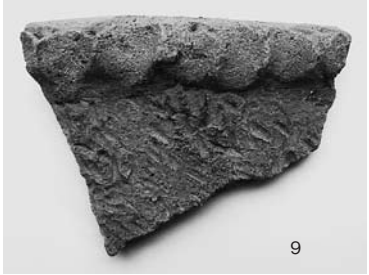
０２Ｄ出土遺物

０１Ｉ出土遺物

０１Ｋ出土遺物







報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし　せきばだいいせきえーちてん
書名	千葉県八千代市堰場台遺跡ａ地点
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	轟　直行
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　ＴＥＬ 047（483）1151代表
発行年月日	西暦2014年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
せきばだいいせきえーちてん 堰場台遺跡ａ地点 せきばだいこふんびーちてん 堰場台古墳ｂ地点	おおわだあざせきばだい 大和田字堰場台283番１， ほりこめ 堀込250番９	1221	271 292	35度42分49秒	140度6分16秒	2012.07.01 ～ 2012.07.31	842.5	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堰場台遺跡ａ地点	包蔵地 集落跡	縄文時代	土坑４基， 陥穴１基	石器	
		古墳時代	竪穴住居跡２軒， 性格不明遺構１基	古墳時代土師器， 石製模造品，石製紡錘車	
堰場台古墳ｂ地点	古墳	古墳時代	円墳1	縄文土器，古墳時代土師器	

要約	今回の調査では縄文時代と古墳時代の遺構が検出され，遺物が出土した。 縄文時代の遺構としては時期不明の土坑４基および陥穴１基が検出された。遺物としては陥穴の底面から石鏃１点が出土し，遺構外から阿玉台式土器と加曽利Ｂ式土器の破片が数点出土した。 古墳時代の遺構としては竪穴住居跡２軒，古墳の周溝１条，性格不明の竪穴状遺構１基を検出した。古墳の墳丘は既に失われており，周溝のみの検出となったが，周溝の形態から円墳と見られ，昭和58年（1983年）に調査を行なった箱式石棺に伴うものと考えられる。竪穴住居跡で注目されるのは01Dで，石製模造品の鏡形石製模造品や剣形石製模造品，臼玉の未製品，そして石製模造品の製作に伴う剝片・細片などが出土しており，石製模造品の工房跡であった可能性が高い。八千代市では新川西岸に石製模造品の工房跡が集中しており，その要因については古墳時代における八千代市とその周辺の様相を知る上で重要な課題である。 今後の課題としては，堰場台遺跡の理解については今回の調査が端緒となったに過ぎず，遺跡がどこまで広がりを持つのかといった点が挙げられる。

千葉県八千代市堰場台遺跡 a 地点
―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　平成26年３月31日
編　　集　八千代市教育委員会　教育総務課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
TEL 047-483-1151 代表
発　　行　株式会社グランドラインコーポレーション
印　　刷　金子印刷企画